二〇一一年六月四日

合歓咲いて雨暗き路地明るふす　ひかり
一握り庭に得たると豆ごはん　菜々
ほととぎす間遠に聞きて仕舞風呂　うつぎ
梅雨晴間たまねぎ掘らな芋掘らな　菜々

二〇一一年六月三日

衣更へて義手のかろしと庭へ出づ　雅流
鳴き止みて蛙田の闇深くなり　とろうち
踏まずんば進めずえごの花畳　うつぎ
大琵琶湖の雲を被りて五月雨るる　よし子
貴婦人の名の並びをり薔薇の園　百合
水音の絶えぬ庭なり苔涼し　きづな
ベランダの満艦飾や梅雨晴間　満天

二〇一一年六月二日

水中に白根の遊ぶ花あさざ　菜々
梅雨晴れ間棚田一枚づつひかる　よし子
幾千の奉納地蔵楠若葉　ぽんこ
月見亭涼し眼下に瀬田の川　わかば
青芝や三角屋根は厩舎らし　菜々
梅漬ける香り厨に満てりけり　はく子

二〇一一年六月一日

濁流の沢を掠めて夏燕　小袖
大屋根の家紋を映し植田澄む　うつぎ
地場苺形悪しくも味は良し　宏虎
万緑の谿に白きは早瀬かな　とろうち
ケーブルカー万緑の谿二分けす　宏虎
薔薇の影水かげろふが揺らしをり　菜々
夕闇の庭に灯ともす君影草　ともえ
柏餅母に習ひし味を恋ふ　こすもす
教室の明るくなりし更衣　こすもす
未央柳ダイヤ光の雨滴受け　ぽんこ

二〇一一年五月三一日

竹散るや五百羅漢の在す山　雅流
ベルト穴余りし予後の更衣　なつき
梅雨寒しびんずる尊の頭撫で　ぽんこ
梅雨茸賽の河原に勢揃ひ　うつぎ
波たたぬ海のうねりや五月雨　ともえ
時計塔青葉の森を抽んでし　よし女
梅雨寒や羅漢は肩を寄せ合ひて　有香
青蔦の虜となりし巣箱かな　とろうち

二〇一一年五月三〇日

八つ橋に傘渋滞す菖蒲園　満天
環濠の址を埋めし花菖蒲　よし子

二〇一一年五月二九日

縫合の傷しくしくと梅雨に入る　なつき
長雨や代田にあらず休耕田　せいじ
新調の白きカーテン明易し　なつき
花びらの重たげ雨の菖蒲園　はく子
ケーブルカーすれ違ふとき峪涼し　こすもす
梅雨荒れて鴨川の景一変す　満天

毎日句会みのる選・二〇一一年八月二日